

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 12 月 16 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242006

研究課題名(和文) 身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究

研究課題名(英文) Comparative religious studies on transformation of body and mind

研究代表者

鎌田 東二 (KAMATA, TOJI)

京都大学・こころの未来研究センター・教授

研究者番号：00233924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,300,000円

研究成果の概要(和文)：「身心変容技法」とは[身体と心の状態を当事者にとってよりよいと考えられる理想的な状態に切り替え変容・転換させる諸技法/ワザ]を指すが、本科研では祈り・祭り・元服・洗礼・灌頂などの伝統的宗教儀礼、種々の瞑想・イニシエーションや武道・武術・体術などの修行やスポーツのトレーニング、歌・合唱・舞踊などの芸術や芸能、治療・セラピー・ケア、教育プログラムなどの領域の領域で編み出され実践されてきた身心変容技法を文献・フィールド・臨床・実験の4手法によって総合的に研究し、その成果を研究年報『身心変容技法研究』(1～4号、2012～15年)にまとめ、国際シンポジウムと大荒行シンポジウムで総括し、社会発信した。

研究成果の概要(英文)：'Techniques of body-mind transformation' refers to the various techniques for switching transformation/conversion of the state of body and mind to an ideal state seen as being an improved state for the person concerned. We have, following the four approaches of literature, field, clinical and experimental, conducted multidisciplinary research into techniques of body-mind transformation developed and practised in traditional religious rites such as prayer, festival, coming-of-age, baptism and abhisheka; in asceticism and sports training including various types of meditation, initiation and martial and physical arts; in performing arts such as song, chorus and dance; and in the fields of treatment, therapy, care, educational programmes and the like, and we have summarized the results in the annual research report "Research in techniques of body-mind transformation" (Nos. 1-4, 2012-2015) and publicly presented them at an international symposium and a symposium on asceticism.

研究分野：宗教学

キーワード：身心変容技法 ワザ 身体知 神秘体験 瞑想 マインドフルネス 脳科学 認知科学

1. 研究開始当初の背景

(1) 20 世紀末、21 世紀は「心の世紀」になると期待された。だが現実には、未来社会へのグランドデザインは描けず、「心の荒廃」が社会問題となっていた。このような時代状況下、「心の荒廃」から抜け出ていくための宗教的リソースないしワザ(技術と知恵)として、「身心変容技法」に着目し、「心直し」と「世直し」に寄与しようと考えた。

(2) 21 世紀を逞しく生き抜き、新文明を創造していくためには、新しい人間認識と身体論と感覚論が必要である。「身心変容技法」を通して人間の幸福と平和と結びつく「ワザ」を再認識し、各個の生の活力に目覚め、新しい大胆な価値の創造と表現ないし実践に取り組む必要を感じていた。

2. 研究の目的

(1) そこで、神秘思想における観想、仏教における止観や禅や密教の瞑想、修験道の奥駆けや峰入り、滝行、合気道や気功や太極拳などの各種武道・芸道等々、さまざまな「身心変容技法」の諸相(特色)と構造(文法)と可能性(応用性)を、文献研究・フィールド研究・実験研究・臨床研究の手法により総合的に解明し、現代を生きる個人が自分に合ったワザを見出し、活力を掘り起こしながらリアルな社会的現実を生き抜いていくことに資する研究成果を社会発信することを試み、原理的かつ事例的に創造力開発・研究とその実践ないし表現・制作に寄与することを目的として研究を開始した。

(2) そして、「身心変容技法」の理論的かつ実践的事例的研究に基づいて、21 世紀を生き抜く身心の活力と新文明創造に向けて、新しい人間認識と身体論と感覚論の深化と再編集を図った。

3. 研究の方法

(1) 宗教学・美学・芸術学・比較文化論・比較文明論・脳科学・認知科学の観点と研究成果を取り入れて学際的に研究し議論する。方法論としては、文献・思想研究、フィールド研究、臨床研究、実験研究・表現研究を交錯させつつ、議論する手法を取った。

(2) 毎月 1 回行なった合同研究会や月 2 回行なったサブゼミ(世阿弥研究会)の他に、共同でフィールドワークやワークショップを行い、問題意識の共有化と間主観化・間身体化をはかった。

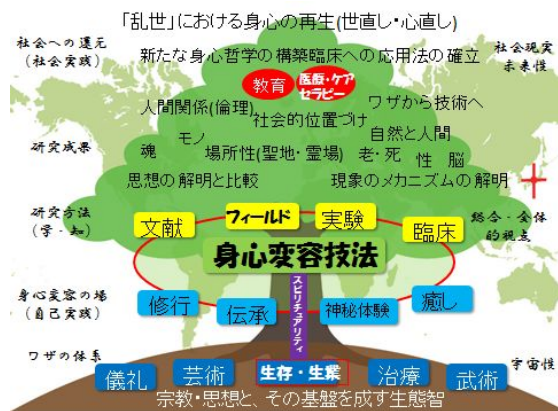
(3) 研究者と宗教実践者や芸術家がコラボレーションしつつ、理論と実技(修行・実践)・表現とを連係させ、身体性を伴う表現として提示した。

(4) 日本に「身心変容技法」の一つの表出と

しての能に注目し、「体」と「心」と「モノ」をつなぐワザを研究し、それを元に「感覚価値」を新しい表現に結びつけ、大胆な表現に取り組むための研究・表現組織・集団として「世阿弥研究会」を設けて活発に活動した。

4. 研究成果

(1) 「身心変容技法」の個別事例を比較検討しながら、そこに共通する構造や文法を取り出し、そのヴァリエーションを明らかにした。その際、宗教学や人類学のみならず、身心問題の哲学的探究や臨床教育学的探究も吟味・検討した。また西欧キリスト教において身体への関心が自覚的に開発されなかったことの原因や、西欧にフロイトの精神分析やユング派の深層心理学などの心理療法が発達したこと、思想史的背景や問題点も解明し、心理療法の技法とアジアの「身心変容技法」との比較研究を行うことで、身心観の文化的相違と文明論的問題を明らかにし、それらの研究成果をすべて研究年報誌である『身心変容技法研究第 1 号～第 4 号』に掲載し、同時に、「身心変容技法研究会」のホームページ上において PDF で全頁公開した。



「身心変容技法」概念図

鎌田東二・鶴岡賀雄・津城寛文他作成

(2) 瞑想を中心とする「身心変容技法」に関する認知神経科学的な研究は、瞑想による注意機能の向上やそれに伴う脳活動の変化を報告しているが、本科研では、主に東アジアに発達した禅・密教・神道行法・気功という、異なる思想的背景や瞑想や精神統一(鎮魂)の方法論をもつ 4 つの「身心変容技法」を比較検討しながら、その神経基盤を明らかにした。具体的には、瞑想・鎮魂の達人の脳活動測定、瞑想・鎮魂のトレーニングの効果の測定(注意機能、脳機能)を行い、それぞれの技法によってどのような変化が生じ、その到達点においてはどのような心理状態、脳状態が達成されるのかを探った。また、行動データ、fMRI などを用いた脳機能データを指標として、禅・密教・神道行法・気功の技法の比較を行った。

(3)日本独自の「身心変容技法」として出羽三山修験道・大峯修験道・熊野修験道を比較研究し、「大荒行シンポジウム」を開催してその違いと特質を探り、その全記録を『モノ学・感覚価値研究第9号』(2015年3月刊)に一挙形成し、同時に「モノ学・感覚価値研究会」のホームページに全頁PDF公開した。

(4)神道の身心変容技法の原型としての「ワザヲギ」を日本神話から探り位置づけるとともに、その魂を招く作法のさまざまなヴァリエーションを事例研究した。そうした「ワザヲギ」の一種の言語精霊を呼び出す技法として、神聖言語=神託・託宣を引き出す(弾き出す)琴弾や神楽や申楽(能)のワザがあったが、そのような祈りや祭りや儀礼や芸能との発生・展開関係を研究会や研究年報誌『身心変容技法研究』において明確にした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計84件)

鎌田東二『身心変容技法』としての歌と剣 身心変容技法研究試論』『身心変容技法研究第4号』査読無、3-15頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

鎌田東二『『こころの練り方』探究事始め その五 安部公房と三島由紀夫を中心に』『モノ学・感覚価値研究第9号』査読無、2-17頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

鎌田東二「神道の生死観 いのち、来るときと去るとき」『日独文化研究所シンポジウム<生と死>』編・発行：公益財団法人日独文化研究所、こぶし書房、2014年7月

鎌田東二「日本の風土と宗教心」『大阪保険医雑誌』No.579、2014年12月号、査読無、42-50頁、大阪保険医協会

町田宗鳳「『即の体験』と『結びの思想』へ」『身心変容技法研究第4号』査読無、16-22頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

鶴岡賀雄「キリスト教神秘主義の伝統における身心変容技法」『身心変容技法研究第4号』査読無、23-32頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

井上ウイマラ「マインドフルネスの彼方へ」『身心変容技法研究第4号』査読無、33-44頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

河合俊雄「身心分離とインターフェイスにおける身心変容技法」『身心変容技法研究第4号』査読無、45-51頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

倉島哲「太極拳と修験道における相互身

体性」『身心変容技法研究第4号』査読無、52-57頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

篠原資明「まぶさぶ、その美学と宗教学」『身心変容技法研究第4号』査読無、66-71頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

棚次正和「心身問題と魂の死後存続」『身心変容技法研究第4号』査読無、132-142頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

津城寛文「ジェームズの心霊研究圏における身心変容問題」『身心変容技法研究第4号』査読無、133-150頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

乾敏郎「自由エネルギー原理に基づく催眠と瞑想の統一理論」『身心変容技法研究第4号』査読無、176-183頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊

齋木潤「マインドフルネス特性と脳のシステム特性」『身心変容技法研究第4号』査読無、184-190頁、京都大学こころの未来研究センター、2015年3月刊  
他

[学会発表](計11件)

鎌田東二「身心変容技法がといかけるもの」日本宗教学会第73回学術大会パネル発表、2014年9月14日、同志社大学  
鎌田東二「人体科学と身心変容」人体科学会第24回学術大会シンポジウム、2014年11月29日、京都大学

鶴岡賀雄「身心変容技法とキリスト教神秘主義がといかけるもの」日本宗教学会第73回学術大会パネル発表、2014年9月14日、同志社大学

棚次正和「身心変容技法としての祈り」日本宗教学会第73回学術大会パネル発表、2014年9月14日、同志社大学

井上ウイマラ「身心変容技法とマインドフルネス」日本宗教学会第73回学術大会パネル発表、2014年9月14日、同志社大学

津城寛文「身心変容技法を心霊研究圏内から考える」日本宗教学会第73回学術大会パネル発表、2014年9月14日、同志社大学  
他

[図書](計19件)

鎌田東二『歌と宗教 歌うこと。そして祈ること。』ポプラ社、224頁、2014年1月

鎌田東二企画・編著『講座スピリチュアル学 第1巻 スピリチュアルケア』BNP、285頁、2014年10月

鎌田東二企画・編著『講座スピリチュアル学 第2巻 スピリチュアリティと医療・健康』BNP、263頁、2014年12月

鎌田東二他共著『乳房の文化論』淡交社,328頁、2014年11月  
鎌田東二編著『究極 日本の聖地』KADOKAWA,319頁、2014年4月  
鎌田東二他共著『文明の未来』東海大学出版会、318頁、2014年5月  
他

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
身心変容技法研究会  
<http://waza-sophia.la.coocan.jp/>  
モノ学・感覚価値研究会  
<http://mono-gaku.la.coocan.jp/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

鎌田 東二(KAMATA TOJI)  
京都大学・こころの未来研究センター・教授  
研究者番号：00233924

(2)研究分担者

河合 俊雄(KAWAI TOSHIO)  
京都大学・こころの未来研究センター・教授  
研究者番号：30234008

鶴岡 賀雄(TSURUOKA YOSHIO)  
東京大学・人文社会学研究科・教授  
研究者番号：60180056

棚次 正和(TANATSUGU MASAKAZU)  
京都府立医科大学・医学研究科・教授  
研究者番号：30241748

町田 宗鳳(MACHIDA SOHO)  
広島大学・総合科学研究科・教授  
研究者番号：10334450

津城 寛文(TSUSHIRO HIROHUMI)  
筑波大学・人文社会学研究科・教授  
研究者番号：30212054

井上 松永(ウイマラ)(INOUE MATSUNAGA)  
高野山大学・文学部・教授  
研究者番号：40421292

倉島 哲(KURASHIMA AKIRA)  
関西学院大学・社会学部・教授  
研究者番号：70378884

篠原 資明(SHINOHARA MOTOAKI)  
京都大学・人間・環境学研究科・教授  
研究者番号：60135499

斎木 潤(SAIKI JUN)  
京都大学・人間・環境学研究科・教授  
研究者番号：60283470

乾 敏郎(INUI TOSHIRO)  
京都大学・情報学研究科・教授  
研究者番号：30107015